

楽しく遊ぶための「十カ条」

いろいろな人の教え方や考え方を、実例として紹介してみました。これらを参考にして、いよいよ実際にどう遊んだら、楽しく成果をあげることができるか、という点に入るわけですが、その前にもう少しだけ「心構え」というと大げさですが、気を配っていただきたいことについてふれてみたいと思います。

これは、石井勲先生を始め、全国各地で子どもたちの指導に当たっている先生方のご意見を、まとめてみたものです。箇条書きにしてみます。

- (1) 漢字を子どもに押し付けてはいけません。関心を示さない時に無理強いしても、まず効果はありません。
- (2) 子どもにとって身近で具体的なものの漢字から始めることです。抽象的な意味の漢字はあとから自然に身に付いてきます。
- (3) 漢字を読めた時、必ずほめてやるのが大切です。より一そう意欲を示してきます。もし失敗したり間違えても、絶対にしかってはいけません。やる気をそぐ原因になります。
- (4) 忙しい時に「遊んで」といわれた場合「今はダメ」と拒否しないように努めましょう。
その時、子どもは意欲満々の状態にあるのですから。
- (5) 漢字になかなか興味を示さなくてもあせりは禁物。ちょっとしたキッカケで関心を示してきます。遊び方に工夫をしてみるといいでしょう。

- (6) 一回に行なう時間を余り長くしない方がいいでしょう。ダレてしまうと効果もダウンします。
- (7) 一度覚えた漢字も、そのままにせず、機会があれば目にふれるようにします。記憶がさらに確実となります。
- (8) 子どもは繰り返しが好きです。お母さん方にとっていやになることもあるかも知れませんが、極力それに応じてあげたいものです。
- (9) (8)と関連しますが、子どもは自分がすでに聞いたことのあるお話や、見て覚えている漢字に出くわした時「知ってる！」と強調しますが、これは「知ってるからもういい」という意味ではなく「もっとやって」との気持ちの表われですから安心して続けていいのです。
- (10) できるのかできないのか、覚えたのか覚えていないのかと、結果を試してはいけません。子どもはいつも試験を受けているような緊張した状態になってしまい、“漢字で遊ぶ”楽しさなど感じられなくなり、ひいては漢字ぎらい、読書ぎらいと、まるで逆の結果をもたらしてしまいますから。

この他にも、様々な留意すべき点があるかと思われませんが、いずれにしても“子どもはみな神童” 子どもの持つすばらしい能力にはいささかも疑いをはさむ余地はありません。このことをしっかりと念頭に置いて、子どもたちを楽しい漢字遊びの世界に連れて行ってあげましょう。